

■児童・生徒の学力の状況

○本年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国語・算数の2教科ともに、東京都の平均正答率を上回る結果となった。国語科では4ポイント、算数科では6ポイント、東京都の平均を上回った。学習の基礎基本が定着している児童が多いこと、投げ出さずに粘り強く考えて回答したことが、好成績につながった。課題としては、自分の考えが伝わるような書き方を工夫することが若干苦手であり、今後の授業改善の参考としたい。

ORSTでは「推論」の分野がやや苦手な傾向にある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○板橋区授業スタンダードの徹底に向け、今後も継続して授業改善を図る必要がある。既習の学習内容を振り返りながら指導し、基礎的・基本的な知識や技能の定着と向上を図るための工夫をする。

○本時のめあてを児童の言葉でつくるのが難しい。（前時からの問いのつながりを意識したい）

○本時のまとめを児童自身の言葉で書かせることができていない。（まとめの書き方を低学年から継続的に指導したい）

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○学校教育目標の「よく考える子」～最後まで課題に取り組み解決しようとする子～に重点を置き、確かな学力の定着と生きる力の育成を目指して、指導方法の工夫・改善に努め、学習意欲を醸成、生涯にわたって学習しようとする意欲と態度を養う。

○確かな学力の定着・向上を図るため、「板橋区授業スタンダード」及び「スタンダードS」を基盤とした授業革新をすすめる。

○ICT環境を計画的かつ効果的に活用した、「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させることにより、思考力・判断力・表現力を養い、互いの考えを交流させることによって学びに向かう力や豊かな人間性を育てる。

○一人一台端末や電子黒板等のICT機器を意図的・計画的かつ効果的に活用し、「分かる・できる・楽しい」授業革新をする。また、児童相互の主体的・協働的な学びを促し、問題を自ら追求しようとする意欲をもたせ、共に学び合いながら自己を高めていく児童を育成する。

○家庭と連携しながら学習習慣の定着及び、学習内容の充実をめざし、児童一人ひとりに基礎的・基本的な知識や技能の習得を図り、確かな学力の定着と向上をめざす。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○子供たちの自己選択、自己決定、自己調整を取り入れた授業を各教科、各単元の計画の中に組み込んでいく。	○一人一台端末を有効に活用し、多様性に対応した授業を創造し、協働的な学びを実現する。 ○A Iドリルなども適切に活用し、個別最適な学びを進める。児童の確かな学力の定着を図る。	○単元配列表及び板橋のiカリキュラムを活用し、教科横断的な視点で各教育活動の内容を有機的に関連づけ、SDGsやSTEAM教育の視点を踏まえながら、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの推進を図る。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○教科書の文章や問題文の意味、意図を正しく読み取る「読み解く力」の育成を意識した授業を意図的・計画的に行う。 ○テキスト「未来へ」を活用し、「緑のカーテン」等の自然環境を生かし、地域の人材ボランティアと児童との交流を図る活動を通して、SDGsの達成に貢献するESDの視点を踏まえた環境教育を推進する。 ○「めざす子ども像」を念頭におき、義務教育9年間で意識した系統性・連続性を配慮しながらキャリア教育やアントレプレナーシップ教育を充実させる。	○年3回のふれあい月間には、校長講話やアンケートを行い、いじめ防止や児童の悩み早期発見、5年生の就学時健康診断補助による自己有用感の育成など「豊かな心」を育んでいく。 ○「パワーアップ向原旬間」では持久走や長縄、ジャベボールの活用により、運動習慣の定着と体力向上を図るなど「健やかな体」の育成にも注力し、小中一貫教育のエリア連携とも合わせて取り組んでいく。 ○道徳教育や特別活動を通じた豊かな人間性と社会性を育成する。	○1人1台端末を有効に活用し、個別最適な学びの実現を図る。 ○授業においては、一斉指導だけでは学習の定着が難しい児童に対して、複数の学習形態を選択できるよう配慮し、「いちょうタイム」を中心に補充学習の時間も設定する。 ○毎回の学校公開や学校行事では、保護者アンケートを実施し、次年度の教育課程の編成に生かそうとしている。